

自治体病院学会発表抄録

NICUにおける薬剤師活動について

○三輪祐太郎、永井浩章、坂本有里恵、北村晃子、藤永仁美、赤松規子、上田里恵、
福井由美子、加古学

【目的】兵庫県立こども病院は、病床数 290 床の小児専門病院であり、新生児集中治療室（以下、NICU）は 15 床を有している。NICU に入院する患児は、低出生体重児が多く、注射薬が主に使用され、投与量が少量のため希釈して使用することが多い。また、投与ルートを複数確保することが困難であるため、複数の注射薬を同時に同一ルートから投与されることが多い。したがって、投与量、配合変化及び投与ルートの確認等きめ細かな薬剤管理業務が重要となる。当院では、2014 年 7 月から NICU 病棟に薬剤師を常駐し薬学的管理を開始した。今回、当院における NICU 薬剤師の活動について報告する。

【方法】薬剤師は、主に平日の午前中（8:45～11:15）に NICU で薬剤管理業務を行っている。その内容は、1 診療録から体重、体温、血圧、心拍数及び水分バランス等の最新の患者情報を収集、2 処方薬剤の用法用量、投与速度及び投与ルート指示を確認、3 ベッドサイドで直接投与薬剤及び投与ルートを確認し、指示受け間違いや配合変化が起こっていないか等確認、4 疑義があれば、看護師及び主治医に照会、5 医療従事者からの医薬品に関する相談応需及び情報提供、6 医薬品管理等である。

【結果】 2014 年 7 月から 2015 年 3 月までの医療従事者への情報提供件数は 73 件、医師への処方提案は 25 件であった。情報提供の内訳は、医薬品製剤情報について 29 件、ルート内変化を含む配合変化について 24 件、医薬品の用法用量について 13 件及びその他 7 件であった。処方提案の内容は、処方薬変更、用法用量、TDM 及び副作用発現に関する事等であった。問い合わせが多い注射薬のフィルター通過性に関して、病棟看護師等の意見も取り入れながら NICU 頻用医薬品について通過可否表を作成した。また、インスリンのルート内吸着予防のため総合ビタミン剤を添加する方法について、医師と協議する等、具体的な対策を行うことができた。薬剤管理指導件数は、593 件であり、1 ヶ月平均約 66 件であった。

【結論】低出生体重児の多い NICU において、薬剤師が限られた点滴ルート内での配合変化防止や微量な薬剤の調製量及び流速等の確認といった薬剤管理業務を行うことは、患児に対する安心・安全な医療の提供につながると考える。今回の取り組みは、チーム医療の推進の面からも有効であった。今後も、医薬品の最新情報の入手に努め、他の医療従事者と連携をとりながら、きめ細やかな病棟業務を実施していきたい。

(987 文字/1000 文字)